

## 中学校

- 主題名 良心に恥じない生き方（D よりよく生きる喜び）
- 教材名 「足袋の季節」
- ねらい 「私」が持ち続けた、おばあさんをだました自責の念と、そのおばあさんの「ふんばりなさいよ」の言葉に支えられた人生を通して、良心に恥じない生き方をしようとする態度を養う。
- 学習指導過程

	学習活動（主な発問と予想される生徒の反応）	具体的な指導・援助
導入 5分	<p>1. 今までの自分の行動を振り返る。</p> <p>○あなたは自分の間違いに気づいたとき、どのような行動をとりますか。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・すぐに謝る。</li> <li>・黙っておくことがある。</li> <li>・時と場合による。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・生徒からの意見を引き出し、発言しやすい雰囲気を心がける。</li> </ul> <p>◇教材の内容に関わることをあらかじめ考えさせます。このとき、負の内容を挙げること（例：親切にできなかったこと）で、雰囲気が重くなることもあるので、注意が必要です。</p>
展開 40分	<p>2. 教材を読む。</p> <p>◇生徒が教材の内容を理解できるよう、教師による範読が基本です。間の取り方、強弱、速度など工夫して読みます。授業前に練習することが望ましいです。</p> <p>3. 人間理解についての発問をする。</p> <p>○「私」の弱いところはどんなところでしょうか。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・おつりをごまかしたところ。</li> <li>・謝りに行けなかったところ。</li> <li>・餅を買いに行くのを同僚に頼んでしまうところ。</li> </ul> <p>○十銭玉を四つ握らせてもらったとき、どうしてすぐに間違っていると言って返さなかったのだろう。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・足袋がほしいから。</li> <li>・おばあさんがおつりを間違えたのであって、自分は悪くないから。</li> <li>・ここには私とおばあさんしかいない。</li> <li>・お金が貯まってから返せばいい。</li> </ul> <p>4. 価値理解についての発問をする。</p> <p>○（結局謝れなかった「私」が）初めて月給をもらったとき、汽車に飛び乗るようにしておばあさんを訪ねたのはなぜだろう。</p>	<p>教師が範読する。</p> <p>◇生徒に音読させると、音読の生徒本人が内容を理解しにくく、上手に読めない場合、他の生徒も内容が理解しにくくなります。</p> <p>◇道徳的価値は大切であってもなかなか実現することができない人間の弱さなどを引き出します。</p> <p>◇人間理解が浅いと、価値理解も深まりにくくなります。</p> <p>◇生徒の反応を予想し、発言を分類して板書すると、わかりやすい板書になります。</p> <p>◇分類して書いた板書を見ながら、自分（生徒）はどの気持ちが一番強い確認すると、自分との関わりがもて、また、自己を見つめるきっかけになります。</p> <p>◇生徒から出た意見を次の発問につなげると生徒の思考がスムーズになります。</p>

	<ul style="list-style-type: none"> <li>・お礼が言いたい。(ア)</li> <li>・おつりをごまかしたことを謝りたい。(イ)</li> <li>・「ふんばりなさいよ」という言葉に支えられて今までがんばって生きてこられたことに対し感謝を伝えたい。(ウ)</li> </ul> <p>5. よりよく生きる生き方から自己を見つめる。 ○みんなは、これまでどんな生き方をしてきましたか。自分が成長するために、どんなことにこだわって生きていますか。</p>	<p>◇ (ウ) のような発言が、今回のねらいに迫っていくこととなります。</p> <p>◇ 「どんなことにこだわって生きていきますか」等、今後の行動を問うのではなく、自分はどうかであったかを見つめさせることが大切です。</p> <p>「思いやり、感謝」「自主、自律、自由と責任 (正直、誠実)」の学習にならないように注意します。</p>
<p>終末5分</p>	<p>6. 本時のまとめをする。</p>	<p>◇終末では、本時でねらいとする道徳的価値について、他の人のどのような意見が参考になったか、その結果どのような考えをもったか等について、「道徳ノート」に書かせるなどが考えられますが、授業を通して、書く量が生徒の負担にならないよう配慮が必要です。 ◇先生の説話によって、生徒の道徳的な実践意欲を高めることも効果的です。 ◇生徒への叱責、訓戒や行為、考えの押し付けにならないよう注意する必要があります。</p>

<板書計画>

第〇〇回 道徳  
足袋の季節

自分の間違いに気づいたとき

- ・すぐに謝る。
- ・黙っておくことがある。
- ・時と場合による。

おばあさんの絵

これまでどんなことにこだわってきたか。

「私」の弱いところ

- ・おつりをごまかしたところ
- ・謝りに行けなかったところ
- ・餅を買いに行くのを同僚に頼んでしまうところ

ネームプレート

- ・足袋がほしいから。
- ・おばあさんがおつりを間違えたのであって、自分が悪くないから。
- ・ここには私とおばあさんしかいない。
- ・お金が貯まったら返せばいいと思った。

「私」の絵

汽車に飛び乗るようにしておばあさんを訪ねたのは…

- ・お礼が言いたい
- ・おつりをごまかしたことを謝りたい
- ・「ふんばりなさいよ」という言葉に支えられて今までがんばって生きてこられたことに対し感謝を伝えたい。

十錢玉を四つ握らせてもらったとき、どうしてすぐに間違っていると行って返さなかったのだろう。

◇導入をあえて左側を書くことで、振り返りのとき見やすくなります。

◇生徒の発言は、ポイントを押さえてできるだけまとめて書くと効率的です。